

# 岡大広報

No.104 2001 3.1

岡山大学 広報委員会



岡山大学



# もくじ

◆増加する留学生 求められる国際化時代への対応 —留学生受入制度の改善—	学務部留学生課	1
◆岡山藩から受け継がれた医学 創立130年を祝う —医学部創立130周年記念式典報告—	医学部 平川方久	5
◆地域との技術交流進む産学官連携 —地域共同研究センター創立10周年記念事業の報告—	地域共同研究センター 阿部武治	9
◆「総合科目に何を望むか —学ぶ側と教える側、双方からの提案—」 第8回全学シンポジウム	教育開発センター・FD専門委員 長谷川芳典	11
新施設紹介 環境理工学部棟の二期工事竣工		13
定年等退職者のプロフィール		15
随想～退官にあたって～		
教師教育へのこだわり	教育学部 南本義一	37
音楽と私…21世紀へ向けて	教育学部 三好恒明	38
秋の設計	法学部 岩間一雄	39
定年雑感	理学部 中村快三	40
回想	理学部 佐藤公行	41
自然科学教育の終焉？	理学部 岩知道正	42
退官にあたって	医学部 荒田次郎	43
時間	工学部 加川幸雄	44
30余年続けた釣り道楽	工学部 岡本卓甬	45
「疫学・医学研究を中心に…ヒトへの放射線の後影響…」	環境理工学部 大竹正徳	46
受賞者の顔		47
部局だより 「アメリカの大学における入学者選抜と教育」についての講演会を開催		53
I T革命に向けた講演会を総合情報処理センターで開催		53
第5回在日中国人留学成果報告会；日中科学技術協会会長賞受賞		53
第11回ヤンマー学生懸賞論文特別優秀賞など受賞		54
海外レポート カリフォルニア大学サンディエゴ校の研究室	農学部 村田芳行	55
研究室の紹介 経済学部経済学科経済史講座		57
医学部解剖学第二講座		59
工学部電気電子工学科電気システム工学講座電力工学分野		61
外国人留学生からみた日本のことなど なぜ自然資源の少ない日本は富国になっているのか？	大学院教育学研究科学校教育専攻 陳娟	63
サークル奮戦記 岡山大学放送文学部		65
準硬式野球部		66
趣味の欄 上がり症でストイックなギタリストたる私	環境理工学部 西村伸一	67

# 「総合科目に何を望むか —学ぶ側と教える側，双方からの提案—」

— 第8回全学シンポジウム —

文学部教授 長谷川 芳 典  
(教育開発センター・FD 専門委員)

平成12年11月23日の13時30分から17時10分まで，岡山大学教育開発センターの主催による表記のシンポジウムが一般教育棟 A 棟401講義室で行われた。大学祭の一日目，祝日であったにもかかわらず，教職員120名，学生26名，他大学から8名，合計154名の参加のもとに活発なディスカッションが行われた。

佐藤公行副学長（センター長）の「総合科目は平成11年度からの新カリキュラムの一つの目玉としてスタートした。今回のシンポはその総合評価の機会である」という挨拶に引き続いて，基盤教育部門(1)の部門長の成田常雄教授から教養教育について，テオリア(theoria)とフマニタス(humanitas)それぞれの観点から理念的な問題が語られた。

続いて学生のパネリストから，総合教育科目受講生654人から回収されたアンケート結果について報告があり，

- ・最新のトピックに関するテーマ
- ・基礎的な内容（専門に片寄らない内容）
- ・資格取得に役立つもの

などが，学生の要望の比率が高い項目として紹介された。

次に，総合科目専門委員会委員長の景山甚郷教授から総合科目の実施状況について，次のような特徴が報告された。

- ・実施科目数は年々増えてきている
- ・複数学部の教員による分担授業や学外講師招聘はあまり多くない
- ・一科目あたりの受講生は400名を越えるものから10名程度まであり人数差のバラツキが大きい(平均120名)
- ・理系学生は文系教員の開講科目を受講しない傾向がある
- ・テーマとシラバス記載内容が受講の手がかりとなっている

最後に，文系と理系の学生パネリストから率直な提案が出された。そのなかでは

- ・実習中心の学生参加型授業
- ・現代の諸問題を扱った内容
- ・社会常識，実学的内容
- ・その他（岡山について，環境問題，心理学など）

といった授業内容についての要望が出された。

その後の討論の中では，教員側から，

- ・単なるカルチャー教室型の授業は望ましくない。
- ・週1回半期とはいえ，学生時代に総合科目を受講したことがその後の人生に大きな影響を与えたこともあった。
- ・教養には「大学人教養」と「社会人教養」があるが区別がつきにくいところがある。
- ・いろいろな科目の受講を通じて，「課題探求・課題解決・成果の表現」という三つの能力を磨いてほしい。

などの意見が出された。

さて、今回のシンポジウムの特徴の一つとして、企画段階から学生が参加した点を挙げることができる。これまでも学生からの発言やシンポ自体への出席を求めることはあったが、企画段階から学生と共同で準備を進めたのは今回が初めてであった。すでに7月の下旬から、大学公認の学生団体などから推薦を受けた6名の学生委員がFD専門委員会の教員とともに実行委員会をつくり、計7回の会合をもって話題提供者を確定しシンポの進め方について話し合った。今回報告された総合科目アンケート調査も学生側の自発的な要望に基づいて実施され、学生自身の手により取りまとめられたものである。

今回のシンポジウムにおいて学生の出席が少なかったことはまことに残念であったが、とにかく積極性を持った学生が企画段階から加わり、シンポジウムの席上でも率直かつ積極的に発言した点は、今後の大学教育改善にとって大きな実績になるものと評価されよう。

平成12年6月14日に公表された文部省高等教育局・調査研究協力者会議の報告書『大学における学生生活の充実方策について』は、「学生中心の大学」への転換を図るという観点から学生の希望や意見を適切に大学の運営に反映させることが重要であるとした上で、正課外教育や福利厚生分野に加えて、今後は、正課教育の内容のあり方や授業方法、さらに教育条件の改善などの分野についても学生の希望や意見を適切に取り入れる仕組みを整備していくことが重要であること、また、その改善方策として、大学の責任者が定期的に学生と意見交換する場を設け、その結果を、できるだけ大学運営に反映させるという方法が有効であることを提言している。さらに、平成12年12月28日に行われた「教育改革についての全学討論会」では河野伊一郎学長から「教える者と学ぶ者の共通意識」を形成するための対話の重要性が強調された。

このように、総合科目に限らず、大学のあらゆる教育活動について多面的な評価が求められる時代となった。その一環として、既存の授業科目ばかりでなく、カリキュラム策定段階から、受講生たる学生の声を反映させていくことはぜひとも必要である。またその際には、より質の高い評価活動を行えるように学生側の研修機会を増やし、学生参加を制度上で位置づけるなどの改善を行っていかなければならない。この方向で改革が進められることを強く期待したい。



## 岡大広報No.104

- 編集  
岡山大学広報委員会
- 所在地  
〒700-8530岡山市津島中1丁目1-1
- 電話  
086-252-1111 (代表)
- ホームページアドレス  
<http://www.okayama-u.ac.jp>

## お知らせ

昭和45年4月25日に第1号が発行され、本号で第104号を数えるこの「岡大広報」は、今号をもちまして終刊とさせていただきます。編集等にご協力いただきました皆様には、心より厚く御礼申し上げます。

なお、第103号においてお知らせいたしましたように、平成13年4月20日に創刊されます、岡山大学広報「いちよう並木」が、新世紀のなかで発展していく岡山大学の今を皆様にお伝えすることになります。

皆様からの旧に倍しますご協力をいただきながら、よりよい誌面づくりに努める所存ですので、よろしく願い申し上げます。

岡山大学 広報委員会

